

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 地域高規格道路 第二阪和国道 一般国道26号 第二阪和国道	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局	
起終点 自：大阪府阪南市自然田 至：大阪府泉南郡岬町深日		延長 11.2km	
事業概要 一般国道26号は、大阪市を起点として、大阪湾岸沿いに堺市、岸和田市、阪南市など大阪南部の主要都市を通過し和歌山市に至る主要幹線道路である。 第二阪和国道は、現道の交通混雑の緩和、交通安全の確保及び救急医療の支援、災害時の代替路の確保等を目的に計画された道路である。			
S63年度事業化 (H17年度延伸)	S62年度都市計画決定 (H-年度変更)	H5年度用地着手	H8年度工事着手
全体事業費 1,020億円		事業進捗率 約79%	供用済延長 9.0km
計画交通量 27,600台/日			
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 223/1,260億円 (事業費: 156/1,193億円 維持管理費: 67/67億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 732/1,527億円 (走行時間短縮便益: 598/1,289億円 走行経費減少便益: 85/159億円 交通事故減少便益: 50/78億円)
	(残事業) 3.3	基準年 平成25年	
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.0~1.5(交通量±10%) 事業費：B/C=1.2~1.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1~1.3(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=2.6~4.1(交通量±10%) 事業費：B/C=3.1~3.5(事業費±10%) 事業期間：B/C=3.1~3.4(事業期間±20%)			
事業の効果等			
①交通混雑の緩和 ・暫定部分開通した区間に並行する国道26号では渋滞解消など交通状況が改善、渋滞が残る事業中並行区間においても同様の効果が期待。			
②交通安全の確保 ・暫定部分開通した区間に並行する国道26号では死傷事故率が大幅に減少、周辺地域の生活道路でも交通事故が減少し、事業中並行区間においても全線開通による死傷事故率の減少が期待。			
③救急医療の支援 ・岬町～府立泉州救命救急センターへの所要時間が短縮。(38分→36分)			
④災害時の代替路の確保 ・豪雨等の自然災害による通行止めが発生する国道26号と主な主要地方道の広域的な代替路を確保。 ・自然災害や異常気象時等にも強い、安全で安定した物資輸送を確保。			
⑤空港へのアクセス向上 ・泉南郡岬町～関西国際空港への所要時間が短縮。(38分→32分)			
⑥特定重要港湾へのアクセス向上 ・泉南郡岬町～堺泉北港への所要時間が短縮。(69分→63分)			
⑦日常生活圏中心都市へのアクセス向上 ・泉南郡岬町～和歌山市への所要時間が短縮。(24分→18分)			
⑧主要な観光地へのアクセス向上 ・沿道へのアクセス性向上により、観光客の増加が見込まれる。 (道の駅「とっとパーク小島」: 5.4万人/年(H24)、みさき公園: 35.5万人/年(H24)、淡輪海水浴場: 10.1万人/年(H24)、等)			
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： ・第二阪和道路建設促進期成同盟会(S34.12設立、岬町長、阪南市長、堺市長、高石市長、泉大津市長、和泉市長、忠岡町長、岸和田市長、貝塚市長、泉佐野市長、田尻町長、泉南市長等より構成)等より早期整備の要望を受けている。			

大阪府知事の意見：

平成27年度供用を目標に事業が進められているところであるが、一日も早い全線整備に向け、事業推進を図られたい。

事業の実施にあたっては、道路構造や施工方法について十分に検討の上、より一層のコスト縮減に努められたい。

今後とも事業を円滑に進めるため、沿道環境への配慮や交通安全対策、地域振興などに関する地域住民の意見を十分に踏まえながら、事業の進捗に努められたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道26号第二阪和国道」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

暫定部分開通した区間に並行する国道26号では交通量が大幅に減少するも、第二阪和国道を合わせた断面交通量は増加。第二阪和国道沿道の主要な観光施設では、観光入込客数が増加傾向。

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在までに9.0km(自然田～淡輪ランプ)が暫定2車線開通済み、用地進捗率：約99%、事業進捗率：約79%。残る区間について、用地買収及び改良工事等を推進する。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業を推進し、平成27年度の暫定2車線開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

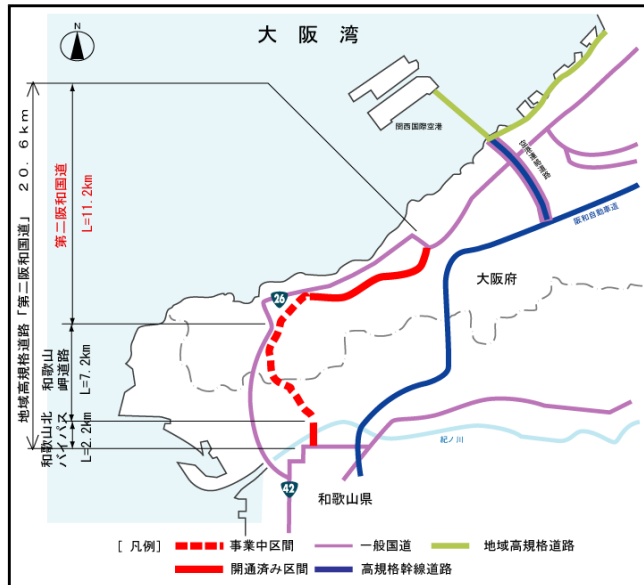
担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

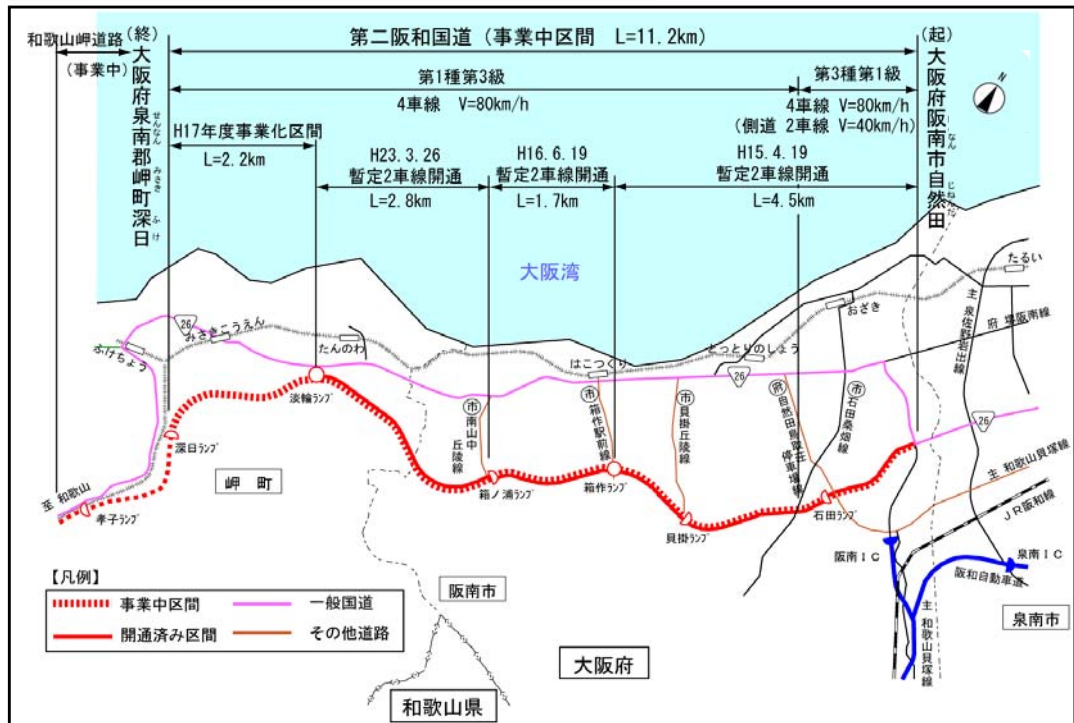
事業名	地域高規格道路 第二阪和国道 一般国道26号 第二阪和国道	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：大阪府大阪市自然田 至：大阪府泉南郡岬町深日	延長	11.2km		

事業概要図

【位置図】



【概要図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。